

令和5年3月に策定した「竹の塚エリアデザイン まちづくりの基本的な考え方」について、駅周辺の「まちの顔づくり」のための論点を整理しました。

北の玄関「竹の塚」にふさわしい まちの顔づくり 駅前空間を核とした まちなか再生

駅前にゆとりある公共空間を創出することで、回遊性が高く、魅力的で活気のある「暮らしのまち」を目指します。

1 人を中心の駅前空間づくり

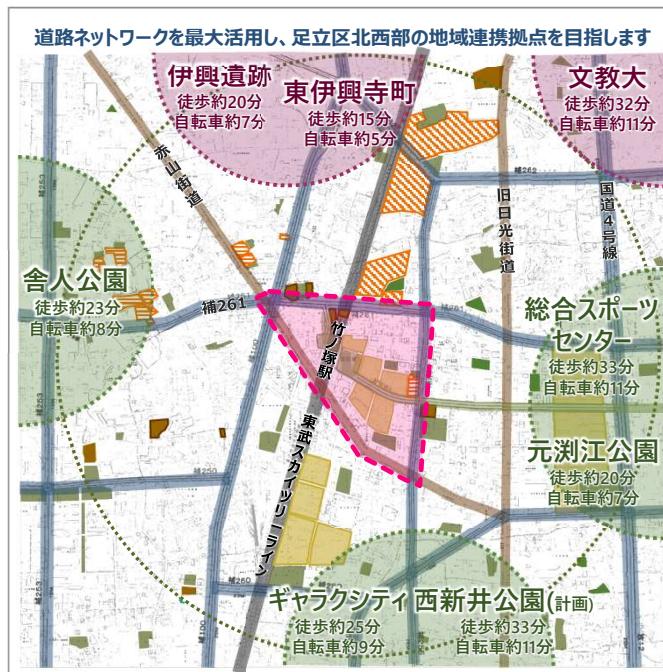
- (1) 駅前広場に広場空間を創出
(イメージバースの実現、東口駅前交通広場の見直しを検討)
- (2) 公共と民間がともにつくり出す公共空間 = 居場所づくり

2 目的地となる拠点づくり・活動づくり

- (1) 【短期】区有地を暫定活用した活動づくり
→連立事業用地・高架下公共利用用地に暫定駐輪場と広場
- (2) 【中・長期】公共施設再編と公民連携の区有地活用による拠点づくり

3 歩行者と自転車が共存する環境づくり

- (1) 駅前広場は歩行者を優先（押し歩き道路の指定など）
- (2) 自転車ネットワーク路線の走行環境を整備、ウォーカブルエリア外周に公共駐輪場（定期）を設置
- (3) 買い物利用等に対応する短時間のまちなか駐輪場を配置



エリアコンセプト 人が主役のまちづくり

「住み続けたい」と思う人や「まちへの愛着」「人に勧めたい」などプラスイメージを持つ人を増やすため、地域に根差した「場づくり」や「活動づくり」により、地域に住み暮らす人が主役となるまちづくりに取り組みます。

